

2017年(平成29年)3月15日

アイスピグ工法

九州地区で初洗浄

大牟田市 洗浄後流量5割回復



可搬式製氷ユニット

大牟田市環境部発注の圧送管洗浄業務で、アイスピグ管内洗浄工法が採用された。元請会社は共栄環境開発(久留須智子社長)で、施工協力会社

は東亜クラウト工業(大岡宿三社長)。同工法を用いた洗浄業務は九州初。現場は同市東部環境センターから同市七浦橋に至る1・5キロ(φ100、ダクタイル管)。高低差35メートルに加え、蛇行区間を含む難現場。2月15日に試験的に洗浄作業を実施した後、18日に同センターからの725メートル、19日に残る775メートルの本洗浄が行われた。

18日の洗浄作業に合わせ、現場員学会が開かれ、大牟田市職員や地元業者らが視察。同センターに据付けた製氷ユニットで4・4メートルの特殊アイスシャーパーットを製造、午後2時から注入作業を開始。約30分後に回収口に黒色のアイスシャーパーットが到達した。

洗浄前の流量は約21立方メートルまで低下していたが、19日の洗浄後は31・5立方メートルと、約5割の流量回復を確認した。同市担当者は「管閉塞のリスクもなく安全に配慮した洗浄作業により、流量改善効果を確認できた」と評価した。

同工法は特殊製法で製造したアイスシャーパーットを用いた管内洗浄工法。伏越し部など複雑な配管形状部に堆積した夾雑物の高い除去率を誇るほか、腐食環境の改善に取り組む。

九州地区では、環境開発、共栄環境開発の2社がアイスピグ研究会に入会。今後も、同地区での圧送管洗浄市場の開拓に取り組む。



黒色のシャーパーットが到達し洗浄効果を確認

も効果を発揮する。管閉塞の恐れがなく、長距離圧送管に対応した唯一の洗浄技術。昨年末時点で、全国80件、35キロメートルの洗浄実績を持つ。

ユニットが導入された。車両と製氷ユニットを一体化した構造で、製氷拠点がない地域における洗浄ニーズに機動的に対応する。